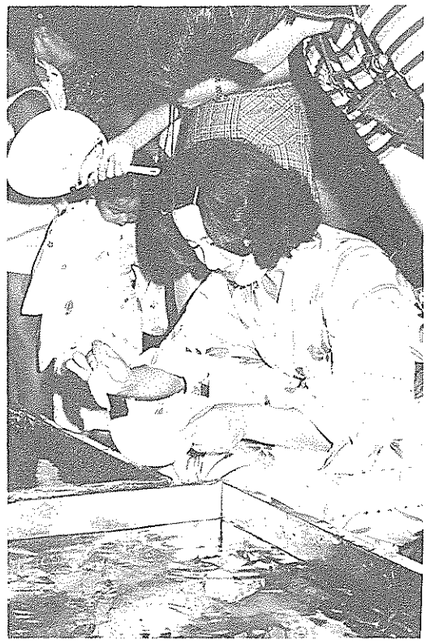
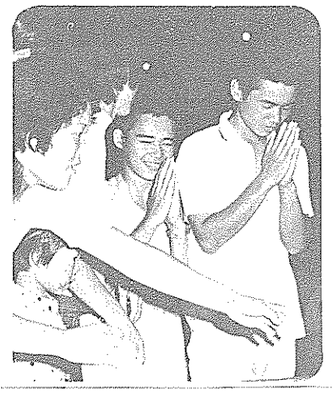
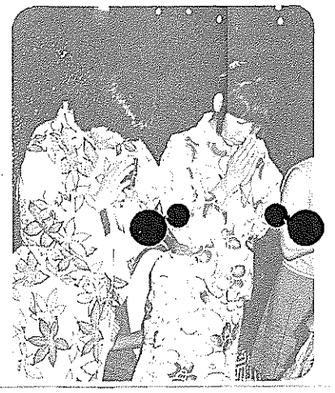
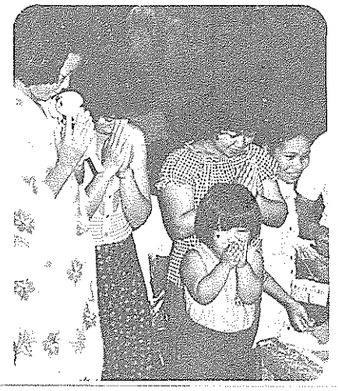
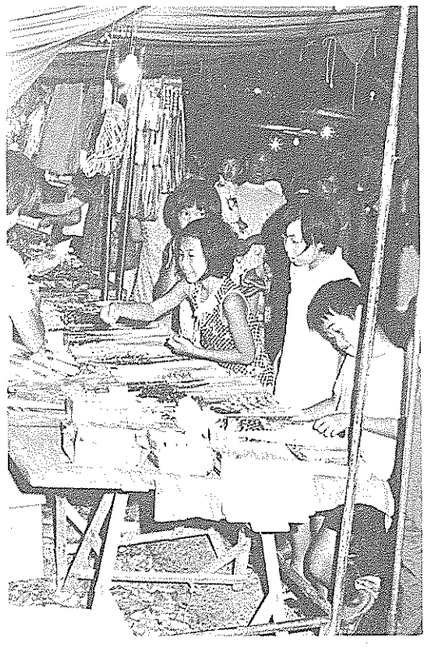
祭りの声に さそわれて











祭りの情緒は夜店と提燈、ゆかた、下駄、カーバイトのにおいこそなくなったけれど、金魚すくいに花火、風鈴。なつかしい伝統の情緒がここにはある。六月三日、祭りの声に誘われて日吉神社に行ってみました。

『清水へ祇園をよぎる桜月夜こよい会う人みな美しき』与謝野晶子がこう歌った時、人はみなゆかたを着て下駄をはいていたことでしょう。

下駄の肌ざわりには湯あがりの爽快さがある。カランカランとなる下駄をはいた時の気持は平和です。のどかです。やかましい都会の雑踏の中では、人の心は索漠としたものになりがちです。けれども下駄で歩くと、下駄の肌ざわりが、湯あがりの気持をよみがえらせるのでしょうか、不思議とイライラした気分が静まるのです。

また、夕方、会社から帰ってゆかたに着がえると、ネクタイや靴の呪縛から解放されてホッとします。当然、人の表情はなごんでやさしくなる。だから祭りで会う人は、みな美しいのです。『人間がみな下駄をはけば戦争はできない』といったのは誰であったか――。

考えてみると、下駄をはくことが少なくなり、ゆかた姿が少なくなるにつれて、人間関係も乾燥してきているようです。むかしは、ゆかた姿で縁台に涼む光景があちこちにありました。しかし縁台の場所は車の洪水で奪われ、忙がしい世相は下駄もはかせてくれません。

人間性の喪失がいわれる時だから、年に一度のゆかたや下駄に象徴される祭りの気持を心にとめて置きたい。

一心にお祈りをする人の姿は美しい。お祭りの広場は、どうやら、人間性の復権が無言のうちに叫ばれている広場のようです。

南国市豊年祭

■9月8日（土）
午後6時から
■市役所広場と
後免町の周辺
■アトラクション
盆踊り・花火・
賞品券のばらまきなど。
■参加の申し込み
市教育委員会社会教育課

市民が市民として共通の発展意欲をもち、あわせて老若男女の乱舞する和かな雰囲気のなかで、新らたな生産への情熱を啓発しよう――。と、市連合青年団を中心に第1回目の豊年祭りが行なわれます。